

柳大使によるアズラック難民キャンプの視察

2018年2月13日、柳大使は、ザルカ県に位置するシリア難民のためのアズラック難民キャンプを訪問し、UNICEF及びUNFPAがキャンプ内で行っている活動状況を視察しました。厳しい寒さの中、困難な生活を強いられるシリア難民の生活が日本を含む多数のドナーの支援によって支えられている現状を確認することができました。



土漠地帯に建設された難民キャンプの外観



支援を提供するドナーが記載された看板

「UNICEFの活動」

UNICEFが日本の支援によって運営するインフォーマル教育センター（マカニセンター：マカニはアラビア語で「私の場所」を意味する）では、同センター内で児童に対して提供されている補習授業及びトレーニングの様子を視察しました。児童の学習レベルに応じて、毎日2時間の補習授業が提供されており、児童は目を輝かせて熱心に授業に取り組んでいました。また、児童の創造性を延ばすことを目的としたトレーニングでは、児童自らが考案した生活改善に役立つアイデアの発表を聞くことができました。同センターでのサポートを受けた児童が、将来を担う人材となることが期待されています。



補習授業の様子



児童による生活改善アイデアの発表の様子

「UNFPAによる活動」

UNFPAが運営するリプロダクティブ・ヘルスセンターでは、産婦人科医が常駐し、妊産婦に対して医療サービスが提供されていました。UNFPAは、医療サービスのみならず、難民キャンプ内で問題となっている児童婚の撲滅に向けた啓蒙活動も実施しているとの説明を受けました。



リプロダクティブ・ヘルスセンター内部の様子